授 業 改 善 プ ラ ン

地域名	北総教育事務所	学校名	香取市立小見川中央小学校

１．課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○令和４年度までの全国学力・学習状況調査の結果から、記述式の問題に課題が見られる。
○領域を問わず、答えを求める方法や事実、理由を言葉や数、式を用いて適切に記述することや、書く問題で解答しなかったり、途中であきらめてしまったりする児童が少なくないという課題が見られる。
○令和４年度は、特に「思考・判断・表現」に関する問題において、平均正答率が全国及び県平均を下回っており、児童の思考力、表現力を高めることが継続した課題である。

２．取組のポイント（仮説、改善方法等）

○「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」において、ＩＣＴを効果的に活用した授業改善を行えば、児童が自ら考え、相手に説明する力を高めることができるであろう。
（令和３年度後期～令和４年度）

３．具体的な実践

○第４学年「角の大きさ」
・「見いだす」過程において、様々な角度をいろいろな方向から見たり推測したりすることで、角度の量感や角度を柔軟に見る感覚を養うために、Microsoft Teams で共有したフラッシュカードを開き、既習事項の復習を行った。
・「広げ深める」過程において、自分の考えを伝えたり、考えを深めたりできるように、一人一台端末を活用して考えを共有したり、話し合う視点を明確にしたペア学習を取り入れたりした。

○第６学年「比例と反比例」
・「自分で取り組む」過程において、自分の考えをもてるように、実際の木の高さを求めるために他者の考えを参考にしたり、自分の理解度に合わせて Microsoft Teams の共有ファイルからヒントカードを選択したりできるようにした。
・「自分で取り組む」から「広げ深める」過程において、自分の考えを伝えやすくしたり、考えを深めたりできるようにするために、１人１台端末を活用して考えを共有したり、話し合う視点を示した学び合いカードを取り入れたりした。

４．成果

○「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の「自分で取り組む」「広げ深める」過程を中心に、考えを共有するための工夫を重ねてきたことで、児童があきらめずに課題解決に取り組み、伝え合い、学び合おうとする意欲が高まってきた。
○学力向上に向けた推進体制を整えることで、児童の課題を踏まえ、ＩＣＴを活用した授業改善を行うことができた。

◆担当指導主事から（北総教育事務所　指導主事 蜷川　俊之）

○香取市立小見川中央小学校は、この２年間、これまでの全国学力・学習状況調査の結果を分析し課題を見付け、授業改善に取り組んだ。「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の各過程において、ＩＣＴ機器を効果的に活用し、考えを共有することで、児童が主体的に考えたり、話合いの視点を明確にして学び合ったりする姿につなげることができた。